

## りんどう

### 1 予報（5月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
リンドウ ホソハマキ	やや早	やや少	(1) 5月の気温は、平年並か高い予報。 (2) 前年秋期の発生量は、平年より少なかった。(－)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(－)：少発要因、(－)：重要な少発要因

### 2 防除のポイント

#### 【リンドウホソハマキ】

- (1) まだ残茎がみられる圃場では、越冬世代成虫発生時期（県中南部で平年5月下旬から）までに残茎処理を徹底する。処理の際はできるだけ地際に近い部分から折り取り、株元まで残さないようにする。また、集めた残茎を圃場内に放置すると発生源になるので適切に処理する。
- (2) 重点防除対象は第1世代の卵・幼虫であり、成虫または潜葉痕および食害痕（図1、2）が認められたら薬剤を散布する。県中南部での防除適期は平年5月下旬～6月上旬（平成30年度防除技術情報参照）であるが、防除開始時期は年によって変動が認められることから、今後の発生予察情報等を参考にする。
- (3) フェニックス顆粒水和剤およびディアナSCは、潜葉痕や生長部の食害が初確認された時期と、その10日後の2回散布すると効果が高い（平成26年度試験研究成果、平成30年度防除技術情報参照）。
- (4) アディオンフロアブルの効果低下事例が認められているので、前年、アディオンフロアブルを使用しても被害が目立った圃場では、前記(3)に示した薬剤によって防除する。
- (5) 産卵の大部分は葉裏に行われるので、下位葉の葉裏までしっかり薬剤がかかるよう、丁寧に散布する。
- (6) 茎部に食入後の幼虫は薬剤防除が難しいため、生長部の被害（図3）を見つけたら折り取り、土中に埋めるなどして処分する。



図1 潜葉痕



図2 生長部の食害痕



図3 生長部の被害